# 『長崎小江スケートパークができるまで』

長崎土木事務所長崎港湾漁港事務所 港湾課 ◎松尾 俊彦
〇馬渡 真奈美

## Chap.1　概要

### 1.1 はじめに

「長崎小江スケートパーク」は、長崎港内の小江地区にある小江工業団地の一角にある公園施設で、全体施設面積は 7,177 ㎡、うちスケートボード場 3,280 ㎡（セクション数 15）、芝生広場 2,420 ㎡、駐車場等 1,477 ㎡（駐車可能台数:30 台）となっています。スケートボードをはじめインラインスケート、BMX（バイシクルモトクロス）の練習および競技会を行うことが可能な施設です。

これらの建設は平成 14 年度から平成 15 年度にかけて行われ、総工事費は 127,400 千円、平成 15 年 5 月 25 日から供用開始されています。

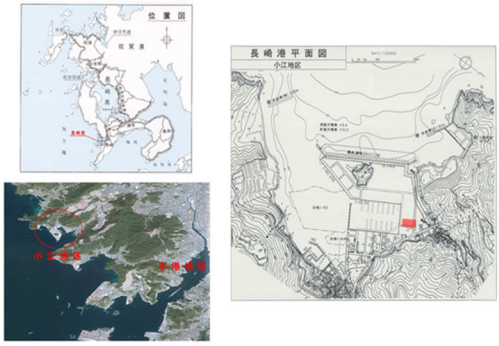


図 1. 長崎港小江地区 位置図

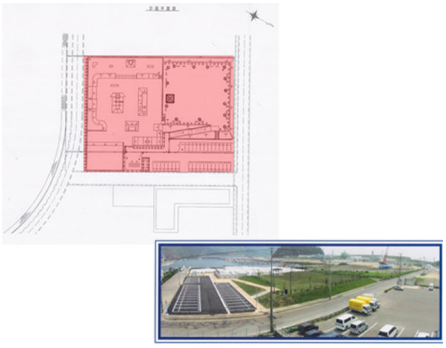

図 2. 長崎小江スケートパーク全景

### 1.2 計画のはじまり

臨海開発局（現・長崎港湾漁港事務所）には、通常の「一般会計」「特別会計」とは別の「企業会計」というものがありますが、平成 6 年、その企業会計により造成された「小江工業団地」への、西部ガス LNG 基地の誘致計画に関連して、“地元活性化対策”を検討することが必要になりました。

西部ガスは平成 10 年から熱量変更計画を実施していて、LNG を原料とした都市ガスの供給を福岡・熊本に続いて長崎でも平成 15 年から行うために受入基地用地を探しており、当時、売却が進んでいなかった小江工業団地を候補地として長崎県に打診してきました。長崎県側も誘致に積極的な対応をとることになりました。

写真 1. 西部ガス LNG 基地

”地元活性化対策”が必要とされたのには大きな理由があります。それは LNG 基地が『危険物取扱施設』ということです。危険物を取扱う施設があるとなれば、工業団地全体が「危険」というイメージを持つようになり、地価の下落を招くとともに人が近づかなくなる要因になりかねません。従って、既に立地していた事業者らによる小江木材工業協同組合は受け入れに難色を示していましたが、地元説明会や他県の LNG 基地見学会が行われたことにより、「LNG 基地を誘致するなら、地元に悪影響を及ぼさない対策を」という条件をつけて、受け入れる方向へ動き始めました。

地元との調整会が何度も開かれる中で、長崎県や西部ガスから地域活性化の核となる施設建設についていくらか提案があったものの、具体化できず実現が難航するなか LNG 基地の公共性を重視した長崎県は、「企業会計」により、地元活性化対策の施設整備を引き受けることを決めました。

### 1.3 「企業会計」について

先程から「企業会計」という単語を使っていますが、正式名称は「港湾整備事業会計」で、昭和 42 年に地方公営企業法の適用を受ける会計として発足しました。ここでいう「港湾整備事業」は、港湾漁港区域内における臨海開発のための埋め立て等の土地造成や港湾業務を支援する野積場の運営などを実施するもので、「港湾の開発を促進し、あわせて港湾施設の整備拡充を図るとともに、県の経済、文化の向上に寄与するため（長崎県港湾整備事業の設置等に関する条例 県条例第 6 号第 1 条より）」立ち上げられた事業です。

この事業に関しては独立採算制がとられています。その仕組みを土地造成で例えると、『企業債』というものを借り入れて造成を行い、完成した土地を企業へ売却して原価回収するというものです。これまでに企業会計で実施された主な事業には、香焼・深堀地区造成事業(三菱重工長崎造船所および関連企業)や針尾工業団地造成事業（ハウステンボスなど）などがあります。

表１．企業会計による主な事業一覧

| 地区名 | 造成期間(年度) | 事業内容 | 造成面積(千㎡) | 進出企業など |
|---|---|---|---|---|
| 深堀香焼 | S39 ～ S47 | 公共埠頭および臨海工業団地造成 | 1,290 | 三菱重工長崎造船所・その他関連企業 |
| 小ヶ倉柳 | S40 ～ S47 | 公共埠頭および臨海工業団地造成 | 250 | |
| 毛井首 | S44 ～ S50 | 公共埠頭および臨海工業団地造成 | 202 | |
| 福田神ノ島 | S46 ～ H13 | 公共埠頭および臨海工業団地造成 | 909 | 製造業・流通業 |
| 針尾 | S44 ～ H6 | 工業団地造成(→レジャー施設等多角的活用へ) | 190 | ハウステンボス |
| 三重 | S48 ～ H12 | 水産関連施設用地および漁民住宅整備 | 359 | 水産加工業 |
| 小江 | S48 ～ H14 | 公共埠頭および臨海工業団地造成 | 302 | 西部ガスLNG基地 |
| 沖平 | H1 ～ H12 | 水産業・水産資源研究機関集積地域の整備 | 141 | |

## Chap.2　実施計画から施行まで

### 2.1　なぜ「スケートパーク」？

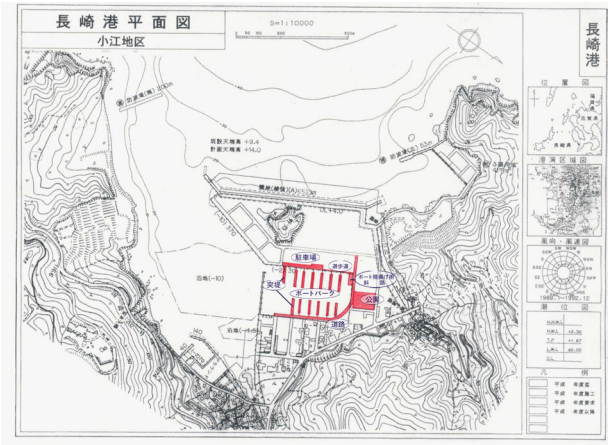


図 3.　地元活性化対策　施設計画

前述のような経過をたどり、県が行うことになった地元活性化対策はボートパーク整備、これに付随した駐車場・突堤・遊歩道・道路・ボート陸揚げ用の斜路、そして運動施設を含む公園緑地の整備となりました。

公園緑地については平成 13 年に基本設計を行い、計画策定のため地元調整会で運動施設をテニスコートとローラースケート場にした案の提示をしたところ、西部ガスが敷地内にテニスコートを 2 面整備するようになったので、スケートパークの整備に変更してもらいたいと修正提案を受けました。これを受けて、県はスケートパークの具体的な設計に入っていったわけです。

スケートパーク整備の提案がなされた背景として、スケートパークに設置される「セクション」と呼ばれる障害物で木製やＦＲＰ製の据え置きタイプのものが市販されているのですが、小江工業団地内でその資材を取り扱っていたということ、また、長崎県内にスケートボード場をつくるために署名活動していたグループの代表者が、小江地区の地元の方と知り合いだったということがあったようです。

### 2.2　愛好者たちの努力

公営スケートパークは全国で 59 箇所が確認されています(平成 16 年 7 月現在)。これらのほとんどが建設されたのは 2000 年以降です。この時期はストリートスポーツが日本のマスメディアで紹介されることが多くなった時期と重なっており、その影響の大きさがうかがえます。

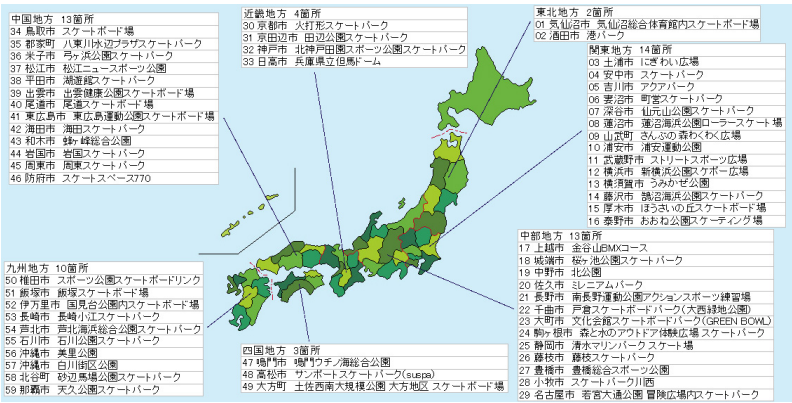


図 4.　公営スケートパーク分布状況

しかし、ストリートスポーツが若者の間に普及していくにつれて問題も増加したのが事実です。スケートボードでいうならば、街の中の手摺・段差などや一般の公園施設で遊ぶことで器物破損・騒音を引き起こし、地域住民とのトラブルが発生することもしばしばです。次第にイメージは悪くなり、練習できる身近な場所が減少していく状況にありました。長崎県内のスケートボード事情も例外ではありません。

この状況を変えるため、全国各地で有志の愛好者たちはマナー向上に努め、署名活動を始めて、スケートパークの建設を行政に働きかけていきました。その結果が公営スケートパークの増加につながっているとも言えるでしょう。

今回、長崎県内で集められた署名は他県の同様の活動の数倍の数が集まり、本県でのスケートパーク建設への期待の大きさが分かります。

写真 2. ｽｹｰﾄﾊﾟｰｸ建設要望のために集められた長崎県内 6000 名分の署名

## 2.3　手探りのスケートパーク建設

こうしてスケートパークをつくることになったものの、どんなセクションをつくりどのように配置するのか、材質を何にしたらよいのかなど、わからないことだらけでした。そこで、署名活動をしていた愛好者たちに設計段階から協力してもらい、実際に利用する人が望むスケートパークの形を決めていきました。

愛好者たちの持つイメージを、設計コンサルタントとともに実際の構造物として図面に起こしていく作業はとても大変だったようです。

そして、その図面をもとに工事をする時も愛好者たちと立ち会い、一部先行施工した形を見てもらうなどして、実際にセクションのカーブの具合や取付ける金具の位置、表面の仕上がりなどが希望したものになっているかどうか、滑る時の安全性に問題ないかどうかをひとつひとつ確認しながら作業を進めていきました。

その甲斐あって、完成したスケートパークは愛好者たちのイメージにとても近いものになりました。知恵を出し合い、試行錯誤しながら作り上げた施設は、全国的にみても質の高いスケートパークとして愛好者に評価を受けています。

写真 3. ｽｹｰﾀｰと現場立会の様子

## Chap.3　「長崎小江スケートパーク」の現在とこれから

### 3.1　現在の利用状況

スケートパークが供用開始してから 2 年間の利用状況は下表のとおりです。大きなイベントとして、年 1 回ペースで競技会を開催している状況で、今年度も秋頃に予定されています。

表 2. 過去 2 年間の開催イベント一覧

| 年 度 | 日　　時 | イ　ベ　ン　ト　等 | 主　　催 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| H15 | 平成15年5月25日 | 2003 AJSA スケートボード チャンピオンシップ第2戦（ムラサキカップ） | 全日本スケートボード協会（AJSA） | |
| | 平成15年11月2日 | endpoint81 Round2　BMXストリートコンテスト | endpoint81 実行委員会（東京） | |
| H16 | 平成16年5月9日 | AJSA 九州アマチュアサーキット 第1戦 | 全日本スケートボード協会（AJSA） | ※雨天によりイベント中止 |

施設自体は 9 時から 19 時（冬期は 18 時まで）の時間帯で、無料で一般開放されています。スケートパークの詳細利用者数についてはなかなか把握できませんが、上記のイベントやスケートボードの専門誌に紹介されたことで全国的に知名度があがったようで、遠方は北海道から泊まりがけで滑りに来たスケーターがいたそうです。また、地元利用者は滑る場所ができたことをとても喜んでいて、「広くて滑りやすい」との声や「セクションが沢山あり、バリエーションに富んだスケーティングができて楽しい」という声も寄せられています。

写真 4. H15.5.25 のｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞｲﾍﾞﾝﾄの様子

### 3.2　今後の課題

現在、スケートパークにかかっている施設管理費は年間約 400 万円です。この費用については、設計・施工を行った流れでそのまま企業会計で負担しています。しかし、企業会計の特質をふまえ、今後は一般会計による管理に切り換える方向で移管を検討中です。

また、スケートパークにおいては一般的に「利用者が飽きないための工夫が必要」と言われます。本施設ではいろんな滑りを楽しめるように愛好者たちが熟慮し、セクションの設置数を多くして特色ある施設づくりを心掛けましたが、利用者の今後の動向へどのように対応するかが課題になってくると思います。

施設維持的な観点からの課題としては、屋外コンクリート施設であるため膨張収縮ひび割れの発生や、スケートボードの衝撃による若干の破損が見られるので、今はまだ安全性に影響がなく急ぐものではありませんが、時期をみて、定期的に補修を行う必要があります。

### 3.3　「モデルケース」として

先日 7 月 30 日、福岡県古賀市の「古賀グリーンパーク」内に建設されたスケートパークが完成し、オープニングイベントが行われました。施設面積 約 1,400 ㎡、”R”をメインに設計したセクションで構成される、福岡で最大のコンクリート製スケートパークです。

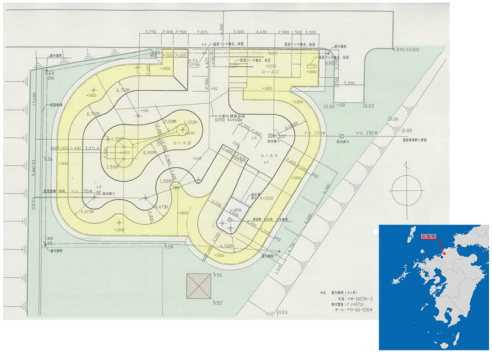

図 5.「ライブ･スケーツ古賀」施設平面図

実はこの施設、「長崎小江スケートパーク」のノウハウを参考に建設されています。簡単に説明しますと、古賀市では 4 年前から青少年の健全な育成のための運動施設を建設する計画が挙がり、スケートパーク建設計画へと発展しました。最近の完成事例として長崎小江スケートパークがあるとの情報をインターネットや口コミで知って、昨年 5 月に視察に来たということです。

写真 5. オープニングイベントの様子

事務所で対応したのはこの視察時だけだったのですが、その後ワークショップを重ねる中で施工業者、地元愛好者やプロスケーター、担当の方たちが何度となく足を運んだといいます。当初は漠然としていたイメージがここに来て次第に明確になっていったらしく、担当の方も「視察に来て大変参考になった」と言っておられたのを聞き、嬉しく思いました。

まだまだ全国各地には公営スケートパーク建設を要望する愛好者の声があります。完全なる「社会的ニーズ対応」で建設計画を公共事業で行うことは、今の時代、大変厳しい状況であることは言うまでもありません。

しかし、古賀市につくられたスケートパーク「ライブ・スケーツ古賀」のように、”長崎”の小江スケートパークをモデルケースにして、紆余曲折しながらも、多分野の人々の知恵・知識が生かされた施設がつくられることはとても誇らしいことだと感じます。同時に、携わった人々、それぞれの想いがつまったスケートパークが末永く利用者に愛用してもらえることを願ってやみません。